

2021年度
事務局だより

NO.5 (通算 NO.13)
2021.4.25

一般社団法人
示現会

- 授賞式
- 受賞者の言葉

裏面 ○<特集> 受賞者の言葉

示現会展、初日授賞式が行われました。
遠方の方、何人か欠席されましたが、滞りなく実施いたしました。
今回発行の画集ですべての受賞作品を見ることができます。
それぞれ特徴ある、素晴らしい作品を発表いたしました。

授賞式

授賞会場となった3階講堂では美術館側からの人数制限もあり、席と席との間隔をとり、3密を避けた形で実施されました。受賞者は19名が参加しました



表彰式に参加した受賞者の皆さん



成田理事長より一人ひとりに
賞状と副賞が授与されました



司会進行は錦織庶務主任が
担当しました



SONNPO美術館賞

SONNPO美術館中島館長より賞状
と副賞をいただく加古さん



加古博美
スペインのグラナダ



24年ぶりの受賞それがSONNPO美術館賞でした。
朗報の後、川沿いを歩きましたが曇りなのにその風景が美しく見えたことといったらなかったです。忘れられない一日となりました！

30年前にはじめてこの地を訪れた時はグラナダのことはアルハンブラ宮殿くらいしか知りませんでした。が、日中アルバラシンを訪れ、イスラムの香りの残る白い街に感銘を受け、それ以来、姉とアパートメントホテルに滞在し、取材をつづけました。

現地では、アンダルシアの朝の白い光の中、近くの石段に座って、地元の人と挨拶を交わしたり、散歩する犬を見つめたりしながらスケッチと水彩画を描きました。

年月を経て、作風はグラナダ滞在中の気分が反映されたのか、自然と白い光が浴びせられた様な色合いになってきました。

幸運が無い降りてきたと信じ頑張ります。本当にありがとうございました。

文部科学大臣賞



小材啓治



授賞者を代表して挨拶する小材さん

この度、文部科学大臣賞という身に余る賞を戴き、その賞の重さに戸惑っております。

この賞の最初の受賞者は山形の武田先生でした。二人で祝宴を開きました。その折武田先生から「次は小材さんがもうんだよ、頑張りなさいよ。」と激励されたことを覚えています。あれは60周年記念展でした。

「頑張ります」といったものの賞を戴くということはなかなか難しいことです。今後も精進したいと思います。

特集1

受賞の言葉

今回受賞された方々の言葉です
おめでとうございます

示現会賞



鎌田雅臣

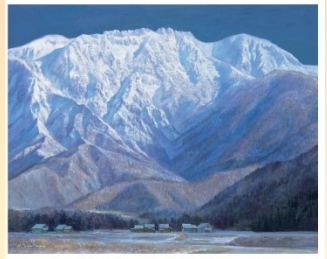


この度の受賞におきましては、喜びよりも驚きが大きく、今後の制作における責任の重さを感じています。

作品は、外出もままならない状況の中、発表会の衣装を着て自宅の鏡の前に立ち、いつか大きな舞台に立つことに思いを馳せ、そしてまた、多くの人々が集まり、披露できる世の中に戻る日が来ることを願う姿を描きました。

会員賞

高橋正則



この度は会員賞を頂き大変光栄に思います。ありがとうございます。身の引き締まる思いでいます。

冬の八海山を描き続けてきました。魚沼の冬は厳しいものですが、晴れ間に見せてくれる八海山の美しさは別格です。八海山は山頂から麓まで山容全体が見える山で、古くから信仰の山でもあります。織りなす山壁の光と影、厳しさと威厳を表現できたらと日々キャンバスに向かっていきます。

まだまだ微力ではありますが精進していきたいと気持ちを新たにしております。

会員賞

野田信子 年2回のパリ

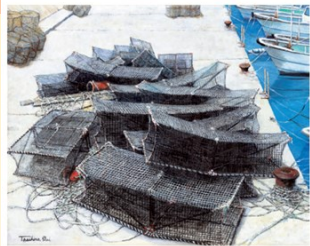


あの頃は内田先生の絵に憧れていた。所先生、山川先生の酒の席の楽しさ、九州旅行での三上先生の優しさ、福岡の人々の熱意、夢のような楽しい時だった。

進歩も心もない絵を描いていた私、嫌なこともあり(×××!!)早く立ち直りたかった。パリに逃げた。でも、今こんな嬉しいことに出会った。“賞をもらったよ！人生頑張りましょう--だよ。--”

大内田賞

土井敏弘



気持ちのいい五月の午後、白く光る岸壁で見かけた黒い漁網と係留されている漁船、青い海面、このコントラストに惹かれた作品です。

私のモチーフは漁港にある漁網達を中心に描いてきましたが、今回の思いがけない受賞により、もう少し「漁港にあるある」を題材に絵が描ける喜びを感じたいと思います。

受賞の言葉は紙面の都合で会員賞および冠賞の方にお願ひしました。なお、佳作賞では、初出品で受賞された方もいました。

岩井てるさん(宮城) 三田陽生さん(栃木) 助川和彦さん(東京)
以上3名のかたです

檜原賞

吉田文弥 私の絵に対する思い



本物の材料で作られた柱や格子は、風雨にさらされ、低い屋根の下に、優しい風合いの陰影を作り出す。急ぐことのなかった昔の時間さえも感じることができる。

その心に焼き付いていた光影に近づけようと描き続けている。今回の受賞を機に、さらに思いが込められるよう、意を強くしている。

樋口賞

折野安弘



刈り取った籾を乾燥させ 籾摺り機にかけ目方を量り袋詰めをする。そんな活気のある数日後の「晩秋の午後」。一年後のために静かに時期を待つ農機具等の瞬間を、窓から差し込む光をバックに表現した。

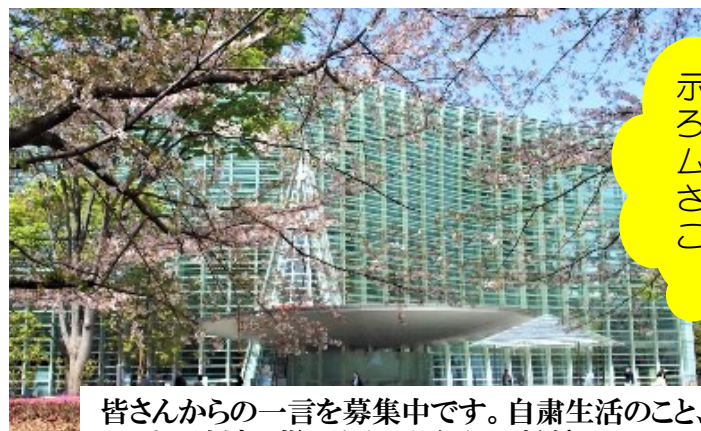
これまで ご指導していただいていた先生方に感謝申し上げるとともに、これからも暗さの中にも変化が見られるような質の高い良い作品を描きたい。

会計からのお知らせ

74回展で昇格された皆様へ

昇格おめでとうございます。また、入会金、記名料の払い込みありがとうございます。「年会費は改めてご請求申し上げます」と記載しましたが、それぞれの資格での年会費の請求は来年1月、22年度の請求からお願いします。

〇1月に案内いたしました今年度の年会費ですが、納入がまだの方は至急お願いいたします。



示現会のいろいろな案内はホームページに掲載されます。ぜひご覧ください。

皆さんからの一言を募集中です。自粛生活のこと、絵のこと、地域の様子など、お知らせください。
メール先 佐藤祐治宛 1941sato@gmail.com
なお、示現会のホームページの「メールでのお問い合わせ」でも投稿できます

示現会ホームページ

